

162回例会記録の報告

(松本市美ヶ原高原の散策)

2001年9月2日(日) 10:15~15:30

参加者：山中・佐藤・池田・宮島・中村・篠原・高沢・*川上・*高野・*山口・*赤羽・*田中・*藤倉・上野・*上野
(計15名：敬称略*女性)

10時集合のところで、担当責任者佐藤が6分遅れて到着。松本市蟻ヶ崎の自宅から、現場があまりに近すぎて、いつもの甘い油断が災いした。陳謝。中山先生はすでに皆さんをまとめ準備ばんだん。何と佐久市を7時出発と聞く。初めての参加者もおられる(山口・高野さん)。常連はもちろん(宮島・川上さん・上野御夫妻)。ただ皆勤賞の小口さん急用ゆえやむなく断念。雨上がりの澄んだ美ヶ原の空気を胸一杯吸い込んだ。久しぶりの快晴。中山先生・篠原先生・池田先生を中心とした教えのもと、駐車場から王が鼻へ、何と2、5時間かけてゆっくり進んだ。多くの植物種を教えて頂いた。途中、熱心に花をスケッチする小学生の女の子が印象的。将来は植物研究会のメンバーかも。

昼食後、草原2地点で局所植物多様性の解析入門として、方形区調査をした。10余名の大先生が1メートル枠を覗きこむのである。幼植物を指差しつぎつぎ植物名を挙げる。とてもメモが追いつかない。頻度は不正確とおもう(実際はもっと多い)が種密度(1平方メートルでの種数)は正確と思う。1つだけ全く見当がつかない双葉の実生(?)があった。牛の放牧草原で高い種密度(33種)が確認できた。そのうち殆どの種は僅かな相対頻度(10%以下：図1~2)である。ここでの頻度とは10cm×10cmのメッシュにおいて確認できた個別種の数であり、被度や個体数とは違う。本来はメッシュサイズを大きくしたり小さくしたりしてはじめて、より現実に近い被度および種密度をつなぐ定量解析が可能となるはずである(スケーリング解析のひとつ

つのフラクタル次元など**：35周年記念号が実現したら投稿予定である)。

もう一つの特記事項は、ナギナタコウジュの花をつけた成熟個体が山頂付近の石原裸地に多く見られたことである。その成熟個体の大きさ(サイズ)の極端なばらつき(可塑性：1cmから50cmの高さ：体積では2500倍?)が確認された(中山さんの驚き)。枯れると強烈な臭さがあるが、花の時期はそれなりにシソ科の香ばしさがあることも確認できた。

(担当・文責：佐藤利率)

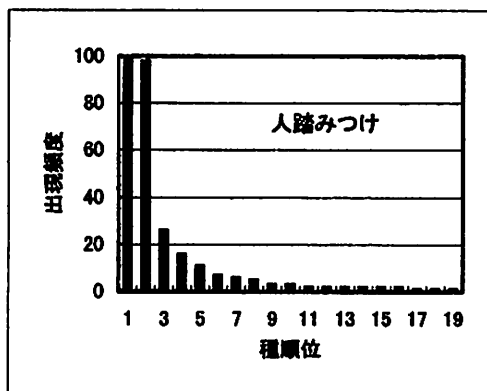


図1 人踏みつけの山頂 (2020m標高)

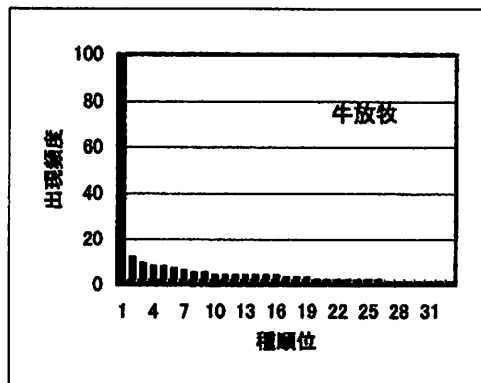


図2 牛放牧の被食草原 (2010m標高)

- ◎いずれも完全な陽地
- ◎実生も多く不明種が混じる
- ◎長野県の山麓では約15種が平均種数
- ◎5種を除いてすべて10%以下の頻度

表1 美ヶ原高原の散策で確認できた植物種 (林縁山道20m×500m:精査ではない)

1 アカハナ	21 コケモモ	41 ノコンギク	61 ヨツバヒヨドリ
2 アキノキリンソウ	22 コメツカ	42 ハクサンフウロ	62 ヨモギ
3 イフキホウフウ	23 サラサトウタン	43 ヒゲナガリヤス	63 リョウブ
4 イワナガリヤス	24 サンブクリントウ	44 ヒメシヤシ	64 レンゲツツジ
5 ウスユキソウ	25 シヤンケソウ	45 ヒメシヤシ	65 ワレモコウ
6 ウツボクサ	26 シュロソウ	46 ヒメツツジ(チョウシ)	
7 ウト	27 シラビソ	47 ヒメナガリヤス	
8 ウマハチソウ	28 シロツメクサ	48 ホタルサイコ	
9 エビカライチコ	29 シロハナヘイイチコ	49 ホタルブクロ	
10 オオハコ	30 スミ	50 マツムシソウ	
11 オオハミネカエデ	31 効ネザクラ	51 ミネカエデ	
12 オキリソウ(アカテン)	32 タチコメクサ	52 ミヤマオトヨモギ	
13 カラマツ	33 タニソバ	53 ミヤマニガイチコ	
14 キオン	34 チダケサシ	54 ミヤマヌカホ	
15 キツネノホタンケ	35 テガタチトリ	55 ミヤマハナキ	
16 クアイソウ	36 トダシバ	56 ミヤマワラビ	
17 クマイササ(シナノ)	37 トヨクチイデ	57 ムシカリ	
18 ケンパイトル	38 ナナカマド	58 ヤマトリセンマイ	
19 コウゾリナ	39 ニシキウツキ	59 ヤマハギ	
20 コキンレイカ	40 スカホ(?)	60 ヤマハハコ	

表2 1m²を100メッシュに分けて精査した
草原の局所植物多様性の例

1 シロツメクサ	100	1 ユシノケグサsp	100
2 ユシノケグサ	98	2 マツムシソウ	12
3 ハクサンフウロ	26	3 ウマハチソウ	9
4 ヒゲナガリヤス	16	4 ウマノアシカタ	8
5 オオハコ	11	5 ヤマハハコグサ	8
6 ウマノアシカタ	7	6 イフキホウフウ	7
7 オオアワガエリ	6	7 ケンパイトル	6
8 アキノキリンソウ	5	8 ヒメスゲ	5
9 アカショウマ	3	9 ネハリノキラン	5
10 セイヨウタンホホ	3	10 ヤマハハコ	4
11 ウツボクサ	2	11 オキリソウsp	4
12 ミツバツチグサ	2	12 タチコメクサ	4
13 フランスキク	2	13 ヨモギ	4
14 クサイ	2	14 アザミsp	4
15 イ外リ	2	15 アカショウマ	4
16 ヨモギ	2	16 セイヨウタンホホ	4
17 シバスケ(ヒメ)	1	17 ヒメハナワラビ	3
18 オオヤマフスマ	1	18 シロツメクサ	3
19 ミミナグサ	1	19 ノキリソウ	3
		20 ヤマハナワラビ	2
		21 コウゾリナ	2
		22 ハクサンフウロ	2
		23 ヒメナガリヤス	2
		24 ミミナグサsp	2
		25 オオハコ	2
		26 ヤマヌスメノヒエ	2
		27 ハナイカリ	1
		28 アキノキリンソウ	1
		29 ウツボクサ	1
		30 ??	1
		31 ヤマニガナ	1
		32 ミツバツチグサ	1
種密度和名	頻度	33 リントウsp	1

＜秋季例会報告＞

小路峠と阿寺溪谷の植物観察会

楯 誠治 (木曽郡三岳村10092)

第163回例会は、2001年10月13日(土)、14日(日)の両日、木曽郡大桑村の小路峠と阿寺溪谷で行われた。参加者は、林一六会長、小口好久、中山湧、松田行雄、中村英夫、佐藤利幸、川上美保子、田中袈裟平、宮島吉彦、大平仁一、安齊好広、黒岩正、和泉国子、高野すみ子、山本れい子、藤倉祐子、篠原喜運、地元から池田信三、楯誠治、今井仁美、青島勉、永井茂富、阿寺溪谷を愛する会の金澤英明夫婦、古畑、松原、勝野の27名であった。

第一日目午後1時に大桑村「フォレスト・木曽」(旧阿寺荘)前に集合、楯の案内で小路峠の散策に向かう。ヤマハギ、マルバハギ、ヌルデ、ノコンギク、スズカアザミ?、ツクバネ、オカトラノオ、コチジミザサ、ニガイチゴ、エゴノキ、リョウブ、キリシマミズキ、サルトリイバラ、キブシ、イヌサンショウ、ネムノキ、ソヨゴ、クロモジ、イヌツゲタムシ